

平成 29 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）

総括研究報告書

**研究課題名：医療的管理下における介護及び日常的な世話が必要な行動障害を有する者の
実態に関する研究（課題番号：H27-身体・知的-指定-001）**

研究代表者 市川 宏伸：日本発達障害ネットワーク 理事長

研究分担者

内山 登紀夫：大正大学心理社会学部 教授

井上 雅彦：鳥取大学医学系研究科 教授

志賀 利一：国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 事業企画局研究部長

高橋 和俊：社会福祉法人侑愛会・おしま地域療育センター 所長

田中 恭子：熊本大学医学部 特任助教

堀江 まゆみ：白梅学園大学こども学部 教授

會田 千重：国立病院機構肥前精神医療センター 精神科医師

小倉 加恵子：森之宮病院神経リハビリテーション研究部 研究員

小野 和哉：聖マリアンナ医科大学 精神医学教室特任教授

田淵 賀裕：関東医療少年院 法務技官

研究要旨：知的・発達障害福祉支援施設の現場では、医療・福祉職員の不足、医療と福祉の連携不足、が指摘されている。一方で連携の重要性は福祉・医療とも認めているが、現状では不十分であることを昨年までの研究で報告してきた。今年度は3年目に当たり、福祉における医療の現実の総括的検討を行うとともに、医療利用者からどう見られているかを検討した。看護学校の教員が知的・発達障害における教育をどうとらえているか、検討した。昨年度まで行ってきた知的・発達障害者への健康状態診断、人間ドッグなどにもさらに検討を加えた。昨年度実施できなかった、先進国訪問としてデンマークの現状を見学してきた。また、研究参加者全員で、今後の報告性を話し合った。福祉と医療の連携を密にするための具体的手がかりの一環となることを念頭に、提言としていきたいと考えた。

A．研究目的

知的障害・発達障害児者における医療は量的にも質的にも十分ではない。現状として、福祉施設における医師、看護師の存在が不十分であることは28年度までの報告で取り上げた。また、知的障害・発達障害の専門性を有する医師の力量について、29年度に保護者当事者を対象としたアンケートを行った。さらに、昨年実施できなかった先進国の現状把握のための見学を行った。昨年度までに行われた研究について、更に29年度の動向、方向性について現状把握を行い、今後の報告性を検討した。

B．研究方法

4つの視点から現状調査と方向性の検討を行った。福祉と医療の連携の一環として、特に知的障害・発達障害を対象とする精神科医師についての保護者アンケートを行った(市川、今井)。一般小児科においての定型発達児を対象とした「プレパレーション」は浸透してきた。発達障害に対する対応方法については医療現場スタッフにもあまり周知されておらず、発達障害児への診療に苦慮しており、対応法の開発を検討する必要がある(井上)。渡島コロニーにおける福祉スタッフの医療的ケアに対する意識調査も昨年に続いて行った(高橋)。主として入院施設を有する、全国児童青年施設協議会(全児協群)、国立病院機構(国立機構群)、日本精神病院協会(日精協群)における知的障害・発達障害者への処遇について検討を行い、約10年前に行った調査との比較も行った(田淵)。重度の知的障害や強度行動障害者施設において、入院に至るような重大な身体症状の発生頻度や内容、

関連する要因について調べた(田中)。福祉施設利用者などを対象に、健康度調査を続行した(志賀)。“知的・発達障害人間ドッグ”を実施している杉並区の状況やこれから行おうとしている大牟田市の現状を調査した(市川、江副、山脇)。デンマークにおける知的障害・発達障害児者を対象とした、医療・福祉・教育の連携について調査をした(堀江)。

C．研究結果

について、今年度行われた、保護者を対象としたアンケート調査では、「精神科医療への関心が非常に高いこと」、「成人を対象にした精神科医の質的な差が大きいこと」、「児童期の医師から成人期医師への引継ぎに課題があること」、「精神科医師の役割に対する親の期待と医師自身の意識にはズレがあること」などが指摘された(市川、今井)。一方で、看護教育の教科書における福祉の記述はほんのわずかであった(市川、根本)。発達障害児の診察、処置においては、家族だけでなく本人への詳しい説明をおこなうことが必要であり、特に感覚の過敏性の強い児に対しては過敏性に配慮をおこなう工夫が求められるなど、従来の小児科での定型発達児への対応とは異なった対応が必要である。今後、病院スタッフを対象としたプレパレーション研修プログラムの開発などの対策が必要であると考えられた(井上)。高齢化及び医療の高度化に伴って医療的ニーズが今後さらに高まっていくことが予想され、障害者支援施設における医療的ニーズの高まりを考慮した新たな体制整備について検討していく必要がある(高橋)。については、全児協群、国立機構群

および日精協群の3群の比較を行い、診断ツールや、薬物療法、カウンセリングに著しい差は認めなかったが、TEEAACHやABAなど発達障害に対する専門療育の割合が、国立機構群が多かった。3群の共通事項として、知的・発達障害患者のニーズは高いが受け皿がないというのが現実であった。10年の比較では大きな変化は見られなかった(田淵)。については、知的障害・発達障害者、強度の行動障害を示す者は、医療的ケアのニーズは高いが、障害が重いほど、入院にはなりにくい傾向がみられた。それは健康であることを意味するものではなく、身体症状の気付かれにくさや入院治療を行う困難さを示していると考えられた(田中)。高齢期に達した知的障害者は生活習慣病のリスクが高まる一方で、認知機能の衰えが一般老人より早く、自ら訴えることが少ないため、一層の健康診断が必要である(志賀)。知的障害・発達障害を先進的に行っている杉並区の病院では、病院全体のコスト削減の方針により、“障害者人間ドッグ”は実施が危ぶまれる状況にあり、その実現が待たれている大牟田市の健康診断計画も実際の進行が難しい(市川、江副、山脇)。のデンマーク見学では、福祉現場等の見学を行い、抱える問題等について説明を受けたが、「障害に対する、違和感・差別感の乏しさ」、「何年も前から行われている支援」、「政府の福祉重視の政策」などがあり、羨ましく思うとともに、さらなる前進を語る必要が再確認された。

D．考察

知的障害・発達障害の医療について、3年目になるが、改めて量・質ともに劣って

いることが推測された。保護者を対象にした調査からも、知的障害・発達障害児者を対象とする成人精神科医の専門性については疑問を呈される部分があった。情報が氾濫する中、医師より情報を持つ保護者もあり、医療・福祉・教育に従事する者は更に知的障害・発達障害を学ぶ必要があると考えられた。

E．結論

ノーマリゼーションという言葉が知られるようになって久しいが、知的障害・発達障害があっても、同等の医療が受けられているだろうか？時間が必要だとは思いますが、「障害があるからこの程度で十分だろう」という発想がどこかにないだろうか？障害があるか否かは紙一重であり、社会全体が知的障害・発達障害があってもなくても受け入れるようになることが最善と考えられた。

F．健康危険情報

特になし

G．研究発表

1 論文発表

市川宏伸 発達障害とは p8-19 「はたらく」を支える 職場×発達障害(五十嵐良雄編)南山堂(東京)H.29.6.(2017)
市川宏伸 p267 特別支援教育の到達点と可能性(柘植雅義&「インクルーシブ教育の未来研究会」編)金剛出版(東京)H.29.9.(2017)

遠藤季哉、永吉 亮、市川宏伸 児童医療機関 発達障害支援の実際 p19-23 支援の基本から多様な困難事例への対応まで

- (内山登紀夫編) 医学書院 H.29.11. (2017)
- 市川宏伸 成人の発達障害 - 小児期に出来ること - 東京都小児科医会報 別冊 36 57-60 H29.11.(2017)
- 市川宏伸、小倉加恵子. なぜメンタルヘルスなのか. 子どもと家族のメンタルヘルス. 小児内科. 49 : 639-644 H29.5. (2017)
- Ichikawa, H., Mikami, K., Okada, T., Yamashita, Y., Ishizaki, Y., Tomoda, A., Ono, H., Usuki, C. and Tadori, Y. Aripiprazole in the Treatment of Irritability in Children and Adolescents with Autism Spectrum Disorder in Japan: A Randomized, Double-blind, Placebo-controlled Study Child Psychiatry Hum Dev 48 796-806 (2017)
- 海老島 健、市川宏伸 子供のうつ病に対する抗うつ薬の使用 臨床精神薬理 21 107-110 H30.1.(2018)
- Ichikawa, H., Hiratani, M., Yasuhara, A., Tsujii, N., Oshimo, T., Ono, H. and Tadori, Y. An open-label extension long-term study of the safety and efficacy of aripiprazole for irritability in children and adolescents with autistic disorder in Japan. Psychiatry and Clinical Neuroscience 72 84-94(2018)
- 市川宏伸 自閉症の支援と医療 SSKP みち 92 6-11 H.30.2.(2018)
- 市川宏伸 発達障害の理解と治療 - 臨床で出会う発達障害とその対応 東京精神科病院協会誌 別冊 第31回東精協学会特集 31号 18-21 H.30.3(2018)
- 樋口輝彦、斎藤万比古、市川宏伸、石崎優子、大谷哲也、小野沢 要 Fluvoxamine maleate (SME3110) の小児強迫性障害患者を対象としたプラセボ対照無作為化二重盲検比較試験及び非盲検長期投与試験(第相臨床試験)臨床精神薬理 21 371-385 H.30.3.(2018)
- 2 学会発表等
- 市川宏伸 発達障害と医療 墨田区医師会 学術講演会 墨田区医師会(東京)2017.4.20
- 市川宏伸 発達障害の見分け方と対応 第26回地域精神保健講座 クボタ心理福祉研究所(東京)2017.5.12
- 市川宏伸 発達障害支援法と行政の役割 山梨県立こころの発達総合支援センター 研修(山梨)2017.6.14
- 市川宏伸 精神科医にとっての生涯教育: ベテラン期 - 生涯教育委員会シンポジウム - 第113回精神神経学会(名古屋)2017.6.22
- 市川宏伸 発達障害のある子ども-気づきとその対応- 平成29年度 精神保健福祉研修(前期) 東京都社会福祉保健医療研修センター(東京)2017.6.26
- 市川宏伸 成人の発達障害 - 小児期に出来ること 第105回東京小児科医会学術講演会 第105回東京小児科医会学術講演会(東京)2017.6.18
- 市川宏伸 深めよう! 発達障害に対する理解と歯科場面における合理的配慮 歯科衛生士研修会 東京都立心身障害者口腔保健センター(東京)2017.7.2.
- 市川宏伸 発達障害の特性理解 発達障害支援スーパーバイザー養成研修(東京)2017.7.25

- 市川宏伸 診断と医療的支援の取り組み方と留意点 自閉症スペクトラム支援の実践知をつなぐ 明治安田こころの健康財団(東京) 2017.7.29
- 市川宏伸 ASD等を巡る最近の臨床的話題 釧路市小児科診療連携フォーラム(北海道) 2017.7.24
- 市川宏伸 発達障害への配慮について考える 裁判所職員総合研修所 教官研修(埼玉) 2017.7.26
- 市川宏伸 最新医療から見る障害特性 医療と心理—発達障害を中心に— 江戸川区立学校特別支援学級担当教諭専門研修(東京) 2017.7.31.
- 市川宏伸 発達障害について 日本カトリック幼児教育連盟 第60回教職員研修大会(東京) 2017.8.4.
- 市川宏伸 発達障害の理解と支援 平成29年度管理職のための特別支援教育リーダーセミナー(愛媛) 2017.8.24
- 市川宏伸 「親として支援者として、発達障害の育ちを支えること」2017 JDDne セミナー in ながの(長野) 2017.9.23
- 市川宏伸 発達障害への医学的対応 発達障害・情緒障害教育専修プログラム講義(神奈川) 2017.10.10
- 市川宏伸 自閉症スペクトラム障害との関わり—親として、医者として— 宮城県自閉症協会 設立50周年記念講演会(宮城) 2017.10.29
- 市川宏伸 発達障害への理解を深めるために 埼玉県警察研修(埼玉) 2017.10.17
- 市川宏伸 発達障害と社会的課題 南児相勉強会(埼玉) 2017.11.7
- 市川宏伸 福祉と医療 日本自閉症協会 地域サポート事業 in 岐阜 2017.11.11
- 市川宏伸 発達障害への理解と現状について 精神科医・小児科医を対象とした発達障害児・者研修 2017.11.19
- 市川宏伸 これからの自閉症支援 - ライフステージを通して考える - 自閉症スペクトラム講演会(山口) 2017.11.25
- 市川宏伸 施設における強度行動障害支援の実際—いくつかの実践を通して— ネットワーキングフォーラム(青森) 2017.11.30
- 市川宏伸 ASDの状態像について—臨床をしていて感ずること— 東京都自閉症協会50周年シンポジウム第2部 2017.11.26
- 市川宏伸 高等学校における困難を抱えた生徒への組織的対応について~発達障害医学の立場から~ 平成29年度石川県高等学校生と指導連絡協議会 2017.12.4.
- 市川宏伸 大人の発達障害 事例から学ぶ職場のメンタルセミナー 大阪中災防 2017.12.6
- 市川宏伸 発達障害の子どもや人々を支援する NPO法人 ファミリーコンサルティング協会 2017.12.9.
- 市川宏伸 発達障害がわかると進むこころのバリアフリー 心のバリアフリーシンポジウム(川崎) 2017.12.12
- 市川宏伸 発達障がいの理解と対応 求められる支援 平成29年度大田区「発達障害シンポジウム」2018.1.21
- 市川宏伸 子どもの発達障害と医療 第334回 岐阜県障害幼児研究会 2018.1.29.
- 市川宏伸 大人の発達障害 事例から学ぶ職場のメンタルセミナー 中部中災防 2018.2.5
- 市川宏伸 発達障害の特性とライフステー

ジ 平成 29 年度 東京都発達障害者支援
体制整備推進事業 2018 . 2.25

市川宏伸 発達障害の正しい理解とライフ
ステージを通じた支援 - 医師、支援者、父
親として、大切にしてきたこと - 相模原
市発達障害啓発講演会(神奈川)2018 .3.5 .

市川宏伸 大人の発達障害 事例から学ぶ
職場のメンタルセミナー 東京中災防
2018.3 . 19

H . 知的財産権の出願・登録状況

1 . 特許取得

なし

2 . 実用新案登録

なし

3 . その他

なし